

2023.2.18 今年度最後の主任研修は代々木病院で行いました

今回の研修ではモヤモヤ事例「ジレンマ・メソッド」を用いてカンファレンス

日々の訪問看護では、人権に関わる事例、困難さを抱える利用者さんの事例が多くあります
そのような事例に向き合うと「これでいいのかな?」「なんかモヤモヤする」という気持ち、できませんか?
大切にしたいです、その気持ち。ぜひカンファレンスや事例検討にあげてみましょう

でも、、、

モヤモヤしているけど
何を相談したいのか
はっきりしない

話の流れはこれで良かった?



事例の詳細を紹介するだけで
時間切れ

結局何を話し合ったのか、
明日から実践できることは

よくある事かもしれません。そこで、今回は「ジレンマ・メソッド」を用いたカンファレンスを行いました

事例：Aさん 80歳 男性 嚥下機能が低下し吸引が必要な状態

「元の状態に戻って欲しい」「栄養が必要」との思いで食事介助を行い、点滴を希望する妻。

発熱を繰り返し、吸引が必要な状態に合わせた処置や介護方法の看護からの提案は、妻なりの考えがあって、すぐには実行されず。

そのやりとりにジレンマを感じ「何を大事にどうしていきたいか寄り添っていたつもりだったが」

とモヤモヤするK看護師からの事例提供。違う人の意見を聞きたい、振り返りをしたいという目的でスタートしました

A・B 2つの選択肢とそれぞれの不都合を整理しながら、参加者からの質問や追加発言で事例理解を深めます。事例提供者は身振り手振りも交えてその状況を伝え、参加者はだんだん事例提供者の身になり考え始めます



事例理解が深まると、不都合をいかに最小化できるか、また、2つの選択肢以外の意見が出されてきます
参加者それぞれがどちらの選択肢を選ぶかその理由も一人ひとり発言。更に参加者間でのやりとりが続き事例が深まりました。

最後、K看護師からは「妻の希望、本人の思いを置き去りにしていたように考えていたが、その後の妻との関係からも、これでよかったと思う」とコメントで終了しました。

【参加者の声】

ジレンマ・メソッドを使うことで、二つの選択肢のそれぞれに不都合があること、自分がいいと思っている案にも、不都合があることを認識しやすい。良い、悪いでなく、また、一つが正しいでなく、批判を恐れずにカンファレンス出来ることが重要と感じました。現場で活用するには、まだまだこなせていないかもしれませんが、カンファレンスの活用の糸口にしていきたいです。